

Mon Nara



Numéro256 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 MAI-JUIN 2013 5~ 6月合併号

00

“音楽の祭日 in 奈良女子大記念館” 6/22(土)開催!

奈良日仏協会は、奈良女子大学仏文研究室との共催で、「Fête de la Musique 音楽の祭日」コンサートを開催します。これは1982年からフランス各地で始まったもので、夏至の日に町中の会場や広場、通りを音楽で満たすお祭りです。

また同時に奈良県の音楽祭「ムジークフェストなら2013」に参加します。今年は17日間、東大寺や春日大社、薬師寺、唐招提寺、国立博物館などの奈良を代表する「場」はもちろん奈良県文化会館国際ホールや奈良ホテルでは連日、小さなカフェ会場でも行われます。

実際6月22日(土)には奈良の街は音楽で溢れます。その会場のひとつ奈良女子大記念館は明治の記念建造物。さまざまなジャンルの音楽がこの素晴らしい会場に午後~夕べまで流れます。♪「質」「多様性」「友情」をモットーに。

日時: 2013年6月22日(土) 16~19時(開場: 15時半) 入場: 無料(定員300名)(事前の申し込みが必要です。メールにて協会事務局へ)

新連載<私とフランス>

《会員の皆様がフランスなりフランス語と関わりを持たれるに至ったいきさつは千差万別と存じます。しかし多くの方にとってフランス(語)との出会いが生涯に大きな影響を及ぼしたことは否定できないものです。》

“フランス”という発音が幸いしたのか、或いは文部省検定の教科書が繰り返しフランス文化・芸術のすばらしさを教えたためか、日本人のフランスへの憧憬は「恋人」並みで、住みたい国の人気度は今もスイスとトップを争っています。

さて、本誌では連載形式で会員の方々にフランスとの関わりを発端と経過をうかがってまいりたいと考えております。

初回は歴代会長の中でもフランスへの愛着が格別で、仏語に熟達されている坂本成彦会長に登場していただきました。(本文3ページを参照)



上記「音楽の祭日」の会場となる奈良女子大記念館と正門(画:三野副会長)



フランス国鉄の出発点「サン・ラザール駅」。この対面にその総務部の建物があり、坂本氏が留学研修中しばしば訪れた。

- <催事の関連記事> ◆新連載「私とフランス」⇒P.3 ◆シネクラブ関係記事 ⇒P.4
 ◆フランス・アラカルト関係記事⇒P.6 ◆パリからの学生の世話人募集 ⇒P.6
 ◆会員主催各種講座表 ⇒P.7

名句の花束 フランス文学の庭から <27> 三野博司

L'essentiel est invisible pour les yeux.(2)
いちばん大切なものは目に見えないんだ。
(サン=テグジュペリ『星の王子さま』1943)

(副会長・奈良女子大学教授)



『星の王子さま』出版 70 周年を記念して、4 月末に河出書房新社が『星の王子さまとサン=テグジュペリ』を刊行したことは先号で書きましたが、フランスでは新しい伝記が出版されています。著者はルーマニア出身のヴィルジル・タナズ氏。小説家、劇作家、演出家であり、1996 年には、彼の新演出による『星の王子さま』が話題になり、その後もパリを中心に上演され続けています。DVD が出るとか、日本公演を企画しているとか、いろいろ情報は伝わってきますが、どちらも実現していません。ただ、Youtube では、舞台のごく一部を見ることが出来ます。

このタナズ氏と知り合ったのは 2007 年 12 月、パリにあるサン=テグジュペリ権利継承者事務所でした。サン=テグジュペリの子孫であり所長であるオリヴィエ=ダゲ氏に紹介されて、しばらく話をしました。このときタナズ氏から彼が演出する『星の王子さま』の公演に招待され、翌日、レピュブリック広場から歩いてすぐのル・タンブル劇場へ出かけました。この魅力あふれる舞台の様子については、拙著『「星の王子さま」事典』（大修館書店）で紹介しています。

翌 2008 年 11 月、モンパルナスのカフェでタナズ氏と再会したとき、彼はカミュの伝記を準備中であると教えてくれました。そしてこう言い添えたのです。「これで私たちを結びつける絆がもう一つできましたね」と。彼がルーマニア時代にカミュの戯曲『戒厳令』を母国語に訳したことは知っていましたが、伝記執筆の件は初耳でした。本が完成して、カミュ没後 60 周年の 2010 年に刊行されると、タナズ氏からは手書きの献呈本が送られてきました。

Pour Hiroshi Mino, avec la même affection, au nom de votre admiration pour Camus qui nous lie, je l'espère, un peu plus, un peu mieux. (三野博司に。変わらぬ愛情をこめて、カミュに対するあなたの賛嘆の名において。その賛嘆が私たちをいっそう強くいっそう堅く結びつけることを希望しつつ。)

以後、彼はカミュ関連のシンポジウムやテレビ番組にも出演するようになります。同時に、伝記執筆に力を注ぎ、ガリマール社のフォリオビオグラフィのシリーズからすでに、チャーホフ、カミュ、ドストエフスキーが刊行されて、初めの二冊は祥伝社から日本語訳も出ています。

そして、今回送られてきたのはサン=テグジュペリの伝記です。これにも、手書きの献辞が添えられていました。

Pour Mino Hiroshi, avec la même admiration, avec la même amitié, pour les souvenirs de tout ce qu'il a fait pour notre Saint-Exupéry. (三野博司に。私たちのサン=テグジュペリに対して彼がなしたすべての仕事の思い出に、変わらぬ賛嘆と、変わらぬ友情をこめて)。

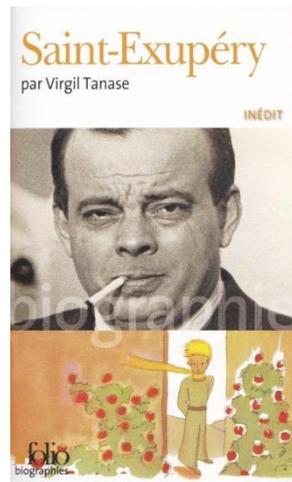
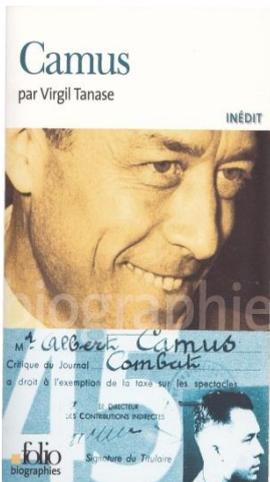
ところで、この本の裏表紙には、次の句が掲げられています。

Voici mon secret. Il est très simple : on ne voit bien qu' avec le cœur. L'essentiel est invisible pour les yeux. これがおれの秘密なんだ。とても簡単なんだよ。心で見なくっちゃ、よく見えない。

いちばん大切なものは目に見えないんだ。

『星の王子さま』のなかでも一番よく知られている句です。第 21 章、キツネが王子さまに言うことばの中にあります。ところで、この句については、2011 年 12 月、ニューヨークの見知らぬ人から突然メールが送られてきて、いくどかのメールのやりとりの結果、ひとつの「発見」をすることになります。それについては次号で。

←筆者に贈られてきた献呈本



私とフランス

<<1>>

坂本 成彦 ①

坂本さんは1940年三重県津市生まれで大阪大学の技術系を卒業され、近鉄に入社。常務取締役を経て奈良交通㈱社長を歴任されました。近鉄在勤中にフランス政府技術協力給費留学生に選ばれ渡仏されました(1971.7~1972.1)。研修の拠点はS N C F (フランス国鉄)で、この留学体験こそ同氏の人生で最大の感銘と影響を与えたものでした。

→ → → → → → → →

質問 1. 会長が最初に仏語を第二外国語に選ばれるに至った動機をお聞かせください。

例えば、シャンソン、映画(女優?)あるいは仏語の発音に魅せられたとか・・・。

坂本: 大学の第二外国語はドイツ語でしたが、フランス語は仏留学したため別途始めました。フランスの鉄道は世界一の技術を持っており仕事にも関連があるためと、フランス語のイントネーションや、フランス映画に魅せられたからです。

質問 2. 留学される直前にはかなり会話が可能だったように伺えますがどこで勉強されたのですか?

坂本: 京都日仏学館へ通ったのと大阪の学校、モレシャンのテレビ番組、ラジオ講座、個人レッスンなど色々やりました。

質問 3. 本当にモレシャンさんはみんなの憧れでした。白黒TVだったのが残念です。ところでS N C F (フランス国鉄)について予備知識などはお持ちでしたか?

坂本: 余り知りませんでした。その後、仏国鉄は世界最高速度(330km/h)を記録したことなど勉強中に知りました。

質問 4. フランスに着かれてから、とくにパリ以外のどの地方を見たいと思われましたか?

坂本: 田舎、特に南仏に行きたかったです。それでプレ・スタージュをリヨンに選びました。今年も、6月にはスペイン国境のバスク地方へ行きます。料理が美味しく、独特の文化・民族意識を持っているそうです。そのあとパリをぶらぶら散策できたらと考えています。

→ → → → → → → →

◆留学記録からの抜粋◆

『なんでも見てやろう』に触発されて

自分は少年時代から好奇心が強く、知りたがる性格、探究心の強い性格であったと思う。中学、高校時代は日本の高度成長期のはしりで、当時テレビでパンアメリカン航空の「兼高かおる世界の旅」を見るのが楽しみで、美しい外国に引き込まれていた。・・・医学部の先輩から ship-doctor の話を聞き北杜夫の紀行文『どكتورマンボウ航海記』を読んで益々外国にあこがれ、さらに小田実の『何でも見てやろう』に影響を受け『ヨーロッパの夜』、『地下室のメロディ』など外国映画に胸をふくらませて何とかして外国へ行きたいと思っていたところ給費留学生の制度を知り、ついに夢かなうこととなった。日本は国を挙げてのインフラ整備の最中で、名神高速、東海道新幹線が開通、日本万国博開催の翌1971年、7月11日に31歳の田舎者が初の外国フランスはパリへと旅立った。

空席ばかりの AF-275 便でのびのびと

伊丹空港に子連れで出産間近の妻や親せき、姉、会社の友人たちの仰々しい見送りを受け AF-275 便で出発した。乗客の定員は124人であるのに大阪からは私と一組の夫婦だけ、東京からは女性団体が加わり計32人という少人数でした。お蔭で、サービスもよろしく、乗務員とも仲良くなって、フランス語の練習にもなり、操縦席を見せてもらったりして楽しい旅ができた。白夜の飛行がアラスカまで続き雲海の上が珍しく、眠気も催さずにじっと眺めている「いなか者」だった。(次号へ続く)

トップページの写真説明：サン・ラザール駅 (Gare St. Lazare)

ル・アーヴルやシェルブールからニューヨークへ、ドーヴィル、ディエップから英国へ向かう大型客船との接続線によって海外への門となった時代もあったサン・ラザール駅。都心のパリ8区にあってオペラ座通りに近い。現在はTGVもなく近距離の通勤列車が主となっている。仏国鉄の出発点で、1837年の建設。S N C Fの本社総務部は道路をはさんで対面の9区にある。この事務所で研修計画などがアレンジされた。

第 30 回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (4/28) 報告

4月28日のシネクラブ例会は、連休中にもかかわらず、会員はじめ会員の家族や友人・元会員・三重日仏協会の方など、多彩な顔ぶれが揃い盛会となりました。プログラムは「フレンチ・サスペンス」特集第2回目の『太陽がいっぱい』(1960)。半数以上の方はすでにこの作品をご覧になったことがあるようでしたが、ラスト近くの山場では会場から思わず嘆息の声が漏れ、みなさん食い入るように画面を見つめ、この映画が見る度に新たな驚きや発見がある作品だということを、肌で感じとってくださったようです。活発な意見交換がなされましたので、コメントをいくつか紹介したいと思います。

A: 自分たちの青年時代、ルネ・クレマンは英雄的存在だった。とりわけ「反戦」というテーマに照らして、ドイツ占領期のフランスの鉄道員たちのレジスタンス運動を、ドキュメンタリータッチで撮影した『鉄路の闘い』(La Bataille du Rail, 1945) は、バイブル的作品だった。「反戦」のテーマでは、日本の木下恵介監督と通じ合う点があるかもしれない。クレマンと木下は同性愛的傾向をもつという点も共通している。『太陽がいっぱい』では、イタリアの下町の魚市場のドキュメンタリー的映像が素晴らしい。カメラマンのアンリ・ドカエの功績も大きい。



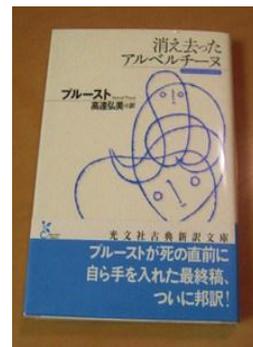
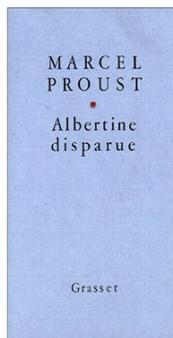
- B: ルネ・クレマンは、当時趨勢をきわめていたヌーヴェルヴァーグの批評家フランソワ・トリュフォーから、彼らと対立する存在とみなされてしまったのは不運なめぐり合わせだった。30年後、ジャン＝リュック・ゴダールの作品『ヌーヴェルヴァーグ』(1990) では、主演にアラン・ドロンを起用して彼を海に溺れさせる場面を撮っている。『太陽がいっぱい』へのオマージュともとれる。
- C: アラン・ドロン演じる主人公のトムは、最終的には女にもお金にも執着していないようだ。彼は究極的に何を求めているのかよくわからない、一筋縄では捉えきれない青年。そうした複雑な人間像をアラン・ドロンが見事に演じきっている。若い頃はアラン・ドロンにマイナス・イメージを抱いたこともあったが、いま見てみると素晴らしい俳優だと思う。
- D: 昔からアラン・ドロンが好きだった。いま見ると尚いい。観客としてはアラン・ドロンの方に感情移入してしまうので、ラストの場面では「どうかつかまらないで!」という気持だった。この映画の主題歌をシャンソン教室で歌っているが、映画をみていっそう歌の魅力が増した。
- E: かつて映画評論家の淀川長治さんは、トムとフィリップの二人の青年の間にホモセクシュアル的な関係をみていた。公開当時にはそんな風にはまったく思わなかったが、今はそういう見方もあると思える。
- F: 原作者パトリシア・ハイスミス、監督ルネ・クレマン、俳優アラン・ドロン、三者三様の屈折した人間観が見事に融合して、すぐれた人間洞察を提示する作品になったのではないか。
- G: 本日はシネクラブにお邪魔させていただき、ありがとうございました。かの有名な『太陽がいっぱい』を初めて見ることができ、大変嬉しかったです。海の自然やイタリアの風景の映像が素晴らしいのも、この映画がいまだに古びない理由の一つではないでしょうか。参加者の皆さんが映画について造詣の深いことに感動しました。またお邪魔する機会があればと思っております。(三重日仏協会・田中さん)
- H: この映画のテーマ曲はニーノ・ロータの名曲。音楽もまた世界中で大ヒットした。映画では音楽が効果的に使われている。きょうはこれからその歌をご披露させていただきます。

と、最後は元大映映画監督の中西忠三さんがシャンソン「太陽がいっぱい」を情感こめて歌いあげ、例会を締め括ってくださった。次回例会は、9月22日か29日を予定しています。日程・プログラムは次号モンナラにてお知らせ致します。

(担当 浅井直子 Nasai206@gmail.com)

「プルースト読書会」の紹介

毎月一回土曜日の午後に、近鉄平城駅前の喫茶店「デミタス」にて、プルースト読書会を開催しています。『失われた時を求めて』(À la Recherche du temps perdu, 1913-1927) は全7巻から成る大長編小説ですが、その中の第6巻『消え去ったアルベルチヌ』(Albertine disparue, 1927) グラッセ版(1987, プルーストが生前最後に修正を加えた版)を読んでいます。



実際のところ、プルーストの文を訳すのは決して容易ではありません。とりあえず逐語的に訳してみても、その文がいったい何を言わんとしているのか、さっぱり理解できないことがあります。そんな時、読書会のメンバー各人の「人生経験」や「人間洞察力」が、心強い「辞書」になってくれます。ひとりが「これは平たく言えば、こういうことやないかね・・・」などと前置きして、自分が経験した実話を織り交ぜながら解釈を試みると、別のひとりが「それなら、こういうことも関係してくるかしら」と違う例をあげて話を敷衍してくれます。するとそれまで沈黙していた別のひとりが「なるほど」と相槌を打って、「なんとなくわかってきたような気がするわ」と返します。こんなような雑談風の会話をしているうちに、つい先刻までお手上げと思われたフランス語の文が、いつの間にかちゃんと筋の通った文に思えてくるのは、不思議という他ありません。そんな時に思い浮かぶのは、やはりプルーストの小説中の言葉です。

En réalité, chaque lecteur est quand il lit le propre lecteur de soi-même.

「実際のところ、ひとりひとりの読者は本を読んでいるとき、自分自身の読者なのだ」

今年2013年は、『失われた時を求めて』第1巻『スワン家の方へ』(Du côté de chez Swann)の出版から、ちょうど百年にあたります。フランスでも様々な行事があるようですが、我らが奈良では今のところ4人もの「物数寄・本好き・人好き」が、「デミタス」特製のケーキで気力を養いつつ、プルーストの文と七転八倒のひと時を過ごしています。勇気ある方はぜひお仲間！

(連絡先 tel. 0743-74-0371 浅井)



仏訳日本の古典ひろい読み <3> 源氏物語 第一帖 “桐壺”

宮中での陰湿ないじめ

<<いづれの御時にか女御、更衣あまたさぶらひける中にいとやむごとなき際にはあらねど・・・>>で始まるこの長編小説の冒頭は、日本の憲法の前文と同じほどに人々に膾炙されている部分であります。さて、その後はどう展開するのでしょうか？ その前にこの時代の天皇の配偶者の順位を述べておきますと、トップ配偶者は「皇后」で次に「女御」、さらに「更衣」と続きます。「中宮」は皇后を二人置かざるをえない場合のみ、先に就任した夫人につけます。宮中の中心は「女の園」でそこでの「いじめ」が最初の話題でした。

内裏にトイレが無くて

宮中でも内裏内には「お手洗い」が部屋としてはなくて、廊下の隅に「おまる」が置かれていました。桐壺更衣という女性が一番下の位だったので天皇の御座所まで通う場合内裏の東北角から西南まで様々な渡り橋を通らねばならなかったのです。そこで寵愛を受けた更衣には色々な仕掛けをはかることで通路を阻みました。「まさなきこと」=tours d'un goût douteux の実体は渡り板をはずしたり便器の中身を回廊にぶち播くこと等でした。

Livre Premier <<Le Clos au Paulownia >>
第一帖 桐壺 (部分)

Ses appartements étaient au Clos au Paulownia. Que par ses incessantes allées et venues qui la faisaient passer devant les appartements de toutes ces dames, elle mit le comble à l'exaspération de ces personnes. ----- Lors même qu'elle se rendait auprès de Sa Majesté, en des occurrences par trop fréquentes, sur son chemin ici ou là, par les galeries et passages, on lui jouait des tours d'un goût douteux, cependant qu'il se produisait des accidents inconvenants que supportaient mal les traînes des robes de celles qui la raccompagnaient ou venaient à sa rencontre. /次ページへ

前ページから続く

Et encore, à un certain moment, il arriva maintes fois que, verrouillant les portes d'un couloir qu'elle ne pouvait éviter de connivence de part et d'autres, on la jetât dans l'embarras et le trouble. Comme à tous propos et innombrables les incidents pénibles ne faisaient que se multiplier, elle s'en tourmentait cruellement, ce dont Sa Majesté éprouva grande pitié.....

※スペースの都合で古文の原文と現代訳ともに掲載しておりません。(文責 中浦)



◆112回 フランス・アラカルトから

5月16日フランス・アラカルトはベルギーからの留学生スワジキ・ションブロートさんを囲んでおこなわれました。彼女は高校生の時にも滞日経験がありフランス語、日本語を交互に使ってのベルギー紹介は面白く参加者の皆さんからも、わかりやすいと好評でした。

チョコレートとワッフルで有名なベルギーはヨーロッパの小国でドイツ、オランダ、フランス、ルクセンブルグに囲まれています。首都ブリュッセルにはいろいろな国際機関の本部があります。言語的にはベルギー語は存在せず、北部地域ではオランダ語、南部地域では、主にフランス語(現地ではワロン語と呼ばれる)、一部ではドイツ語が使われています。この言語の違いがベルギーをややこしくしています。

首都ブリュッセルの美しい建造物や美術の紹介に続き世界的に有名なベルギーの漫画タンタンも話題になりました。またこの日は台湾から7カ国語が流暢に話せるというテリーさんも参加していただきました。テリーさんも加わって活発な会話が弾み楽しい時間が過ごせました。 会員 山中陽子 記。

◆次回 フランス・アラカルトについて◆
—お知らせ—

第113回フランス・アラカルト

日時：7月18日(第3木曜日)15時から
 会費：会員 1000円、非会員 1500円 (ケーキ・飲物共)
 場所：カフェ Mardi Mardi (マルディ マルディ)
 奈良市登美ヶ丘3-12-9 登美ヶ丘ビル1F
 (TEL&FAX : 44-5701※)
 学園前駅からバスで7分、西登美ヶ丘二丁目バス停前
 駐車場有り
 サイト <http://mardimardi.exblog.jp/11477753/>
 ※参加申し込みなどは日仏協会事務局
 (0743-52-3939)まで

講師：Isabelle LEGRAND (イザベル・ルグラン) さん
 2011年9月の第102回フランス・アラカルトにもお招きし、ヴェルサイユ大学とソルボンヌ大学で学ばれた“出版学”について、また“来日のきっかけ”などについてお話しいただきました。その後、日本人男性と結婚されたそうで、今回は「フランス人男性と日本人男性」をテーマにお話し下さる予定です。
 Isabelle さんについての記事は Mon Nara 2011年9—10月合併号に出ています。

パリの大学生を

お世話くださる方 募集します!

ソルボンヌ・パリIV大学の大学院生 Armand Labat さん(男性、24歳)は、日本語学習の目的で夏休みに初来日するのを楽しみにしています。帰国直前の約1週間を関西で過ごす計画で、8月18日から20日にかけて奈良を訪ねたいとのことです(日時未確定)。観光案内、会食・歓談、場合によってはホームステイなど、ボランティアでお世話して下さる方がいらっしゃいましたら、事務局へEメール (afjn_info@kcn.jp) または

Fax(0743-52-3939)でお申し出ください。自己紹介用の履歴書が届いていますので、ご要望があればお送りします。

アルマンさんのお母様は、昨年の秋ソロプチミスト奈良のイベントに参加されたフランス人グループの一人で、その折に奈良日仏協会がアテンド通訳をしたご縁から問い合わせが入りました。

なお、お世話に対する謝金の支給はありません。本人の交通費、入場料(拝観料)、食事代等は、原則として本人負担ですが、自家用車を使う移動や厚意による食事の提供などを妨げるものではありません。1日でも半日でも結構です。日仏交流へのご参加をよろしく願います。(濱)

奈良日仏協会 会員主催の各種講座

(2013年6月現在)

曜	時間帯	場所	講師	内容、教科書	問合わせ先
火	12:30~14:00	奈良フランスクラブ(藤原町)	オリヴィエ・ジャメ	Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 仏検 "Echo 1" CLE International "A la page 2011" Edition Asahi	Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770[ジャメ]
火	17:00~18:30	同上	Ghazi Mahjoub	Initiation à la langue arabe (cours donné en français) Arabe Littéral 1 Klincksieck (A partir de la 13 ^e leçon)	同上
火	19:00~20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語入門 Communication 1 初級 B "Spirale" スピラル Hachette / Pearsons	同上
水	12:30~14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	Echo B1 (CLE International) / Vidéo Cours préparation DAPF-DELFF	同上
木	12:30~14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Echo 2" CLE International / DAPF-DELFF	同上
木	19:00~20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Spirale" Hachette / Pearsons Communication 2 中級	同上
金	10:50~12:50	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Echo 1" CLE International / Communication 3 DAPF-DELFF 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検読書	同上
土	毎月2回 13:30~15:30 (6/15, 29, 7/13, 27...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Interprétation-Traduction 通訳翻訳講座 (Introduction aux techniques d'interprétation et de traduction)	同上
土	毎月1回 11:00~13:00 (6/8, 9/14, 10/12...)	同上	オリヴィエ・ジャメ 浅井直子	NEW! 「ジャメ先生と『虞美人草』を読む」日仏2カ国語による比較文学・比較文化・フランス語翻訳の講座	同上 0743-74-0371 (浅井)
日	2ヶ月に1回 (6/9) 14:00~17:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス歌曲について	同上
日	毎月2回 10:15~12:15 (6/16, 30...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検読書/DELFF	同上
日	毎月1回 14:00~16:00 (6/30, 7/28, 8/25...)	奈良市 中部公民館	オリヴィエ・ジャメ	Séance de lecture et de discussion (Articles du Nouvel-Observateur...) 読書・討論会 (仏検、DELFF/DALF)	同上
金	毎月1回 金曜 10:00~11:30	奈良市 中部公民館	内田 茂	フランス語講読 Variétés françaises (朝日出版) (フランスの歴史・文化・社会を読む!)	080-1411-0056 (内田) 0742-45-3710 (森)
火	毎月第2・4火曜 10:30~12:00	富雄 カフェ・ミュゼット	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	06-6922-6502 (中辻)
金	毎週第3・4金曜 13:00~14:40	奈良ウエルネス 倶楽部	仲井杏奈	基本的な挨拶や表現、シャンソンや映画や料理やお菓子のフランス語	0120-194-902
水	毎月第2・4水曜 9:30~11:00	学園前 西部公民館	仲井秀昭	フランス語初級 まずは「ボンジュール」と「ジュテーム」から (はじめて仏語を習う方も歓迎!)	070-5504-1881 (仲井)
土	カルトナーージュ 隔月1回 土曜 13:30~15:30 頃 (次回 8/31 予定)	新大宮 カフェテラス・ サンフラワー	kayoko	カルトナーージュ初級、中級 厚紙を組み立てて美しい布や紙を覆って作るフランスの伝統的な手工芸。次回は、大人可愛いキャンディーBOX(変わり形)。リポントレーやBOOK型BOX等	090-7750-8570 (中野)
土	フラワーアレンジ 隔月1回 土曜 13:30~15:30 頃 (次回 7/20)	新大宮 カフェテラス・ サンフラワー	vert de gris 古川さやか	ブリザーブドフラワー等を使って アンティーク小物雑貨などにアレンジ	090-7750-8570 (中野)

◆理事会の報告から◆—事務局—

第2回と第3回の理事会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

第2回（臨時）理事会 日時：4月7日（日）15:30～17:00、場所：菜宴

出席者：坂本、三野、濱、浅井、井田、仲井、野島、樋口、三木、森井

議題（1）：「音楽の祭日」の実施に関し企画書「音楽の祭日 in 奈良女子大記念館」に基づき、当日の進め方や、必要な事前準備、役割分担などについて検討した。

議題（2）：「フランス語ガイドクラブ」の構想に関して意見交換を行った。

第3回理事会 日時：5月23日（木）15:00～17:00、場所：菜宴

出席者：坂本、三野、ジャメ、濱、浅井、井田、仲井、中浦、中野、野島、樋口、三木、森井 及び藤村久美子会員（議題1に関しゲスト参加）

○議題（1）：秋のイベントに関し藤村さんからご提案を頂き、意見交換と実施方針の検討を行った。当面の方向としては、紅葉の季節に音楽を中心に、絵画や会食を組み合わせた会とする。秋の教養講座とボジョレー・ヌヴォーの夕べを統合し、今年度秋のメインイベントとする。主会場は宇陀市榛原、藤村会員の自宅・スタジオ“Foyer Vert”、開催日時は11月23日（土曜日・祝）の午後を予定。

○議題（2）・6/22「音楽の祭日」の実施に向けて、作業メモ「音楽の祭日 in 奈良女子大記念館」に沿って、事前準備（特に受付方法変更への対応）、当日の留意事項、役割分担などを確認した。

○議題（3）当面の活動計画検討、次号 Mon Nara の進行状況を確認したほか、フランスからの奈良訪問者への対応を検討した。（濱） [文中敬称略]

奈良日仏アラカルト今&昔（3）

最初は「フランスあれこれ」とか言ってましたが、当時理事をしていた字幕翻訳家の橋本克己さんが「フランス・アラカルト」は？ と提案。さすがコピー感覚は抜群ですね。シャンソンの歌唱指導は時間もなかったので勘弁してもらうことにしました。橋本さんは毎回毎回コーヒーを作ってみんなりに配ってくれました。3月に111回を迎えた「フランス・アラカルト」。それでは、昔のアラカルトでどんなのだったのでしょうか？ ご存知の方はだんだんと少なくなっているかもしれません。けっこう豪華な、あるいは魅力的なゲストを迎えたときもありましたし、こじんまりとアマカルな、あるいは人人人で溢れるときもありました。（仲井秀昭）

「フラワーアレンジ」講座から
〈お知らせ〉

今回はブリザーブドフラワーで作る鳥かごアレンジです。鳥かごの中のアレンジしたお花をコサージュとしてもお使いいただけます。季節を先取る秋の色 3色の中からお好みの色をお選び下さい。（下の写真は一例です）

会員対象の講座ですが、一般の方のご参加も大歓迎です。

▼とき：7月20日（土）13:30～15:30頃

▼参加費：5500円（材料費+1ドリンク）

▼講師：古川 さやか

申込み先・会場等は p.7 の講座表をご参照ください。



事務局から

◆当協会では**会員を募集**しております。今年から法人会員の年会費が大幅に値下げされ自営業の方等の入会が容易になりました。本誌では会員関連の記事や、お店情報を掲載いたします。

◆今月号は「音楽の祭日」関係の広報のため早めの発行となりました。

◆本誌への投稿[特に新鮮で多様な話題など]を歓迎します。

（誌面の都合で意味を極力変えずに用語を替えさせていただくことがあります）

締切日：次号は **7月末日**が締切日です。

Mon Nara Mai-Juin 2013 **5-6月**合併号 Numéro256

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : afjn_info@ken.jp TEL&FAX 0743-52-3939

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ] 発行責任者：坂本成彦